

poco a poco

パラグアイ便り 2024/12/01 Número22

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

【算数祭りを開催しました】

子ども達や先生方の苦手意識を減らし楽しんで学習に取り組むきっかけとなるように、算数のお祭りを企画しました。“学級対抗の算数の運動会”のようなイメージです。スペイン語ではパーティーや祭りのことを「Fiesta（フィエスタ）」と言います。パラグアイの人たちは、このフィエスタが大好きです。フィエスタでは、美味しい食べ物やお酒を食べ飲みながら、会話やダンス、音楽、ゲームやくじ引き、プレゼント交換や写真撮影などを楽しまします。お誕生日会やベビーシャワー、独身最後の日のパーティーなど様々な種類がありますが「フィエスタ」という言葉を聞いただけで、大人も子どもも一瞬でワクワクするような楽しい気持ちになれる魔法の言葉です。そんな魔法の言葉の力と勝負事に本気になれる情熱的なパラグアイ人の素敵なおところを生かし“フィエスタ デ ラ マテマティカ”（算数祭り）という名前のイベントを提案しました。当日だけ頑張るというわけではなく、勝負に勝つことを目的として各学級で継続して練習（算数の学習）をすることを目的として行いました。事前に作成・実施した実力テストの結果を分析し、苦手分野をテーマとしたミニゲームを学年毎に競ってもらいました。子ども達は身体を動かすことが大好きです。身体も頭も全力で動かすことで、とにかく楽しんでもらいたいという願いがありました。子ども達が日頃から練習をするためには、担任の先生方の協力が必須です。そこで、事前に先生方を対象とした研修会を行い、子ども達になりきって試してもらいました。楽しさや面白さを理解してもらった後に、各学級の練習で使用する教材と一緒に作成しました。この時に、日々の積み重ね学習の重要性についても理解してもらいました。臨機応変な対応力が抜群のパラグアイ人は、日本人のように何ヶ月も前からイベントの計画や準備、練習やりハーサルなどを計画的に行うことは基本的にはしません。当日その場で作り上げる、それでいてなんだかんだ上手くやりこなしてしまう、そんな素晴らしい力は大変羨ましいです。しかし、算数の学習では積み重ねが大事です。それを十分に伝えた上で、日々の練習に取り組んでもらいました。先生方はWhatsAppというアプリケーション（LINEとよく似ています）を使って連絡を取り合います。学校のグループチャットに各学級で練習をする様子の写真を送りグッドマークを押して互いの努力を褒め合ったり、競い合うようにして指導したりする先生方の素敵な姿がたくさん見られました。私も担任の先生方と協力して、子ども達に算数の指導を行いました。

当日は言わずもがな担任の先生方も子ども達も大奮闘。まるでパラグアイ人が大好きなサッカーをしている時のように、叫び声が聞こえてくるほど大盛り上がりでした。「ご褒美は絶対に必要だ」という同僚のアドバイスを取り入れ賞状も用意しました。この算数祭りを通して、先生方には積み重ね学習の重要性を、子ども達には算数学習の面白さだけでなく仲間と協力する大変さや楽しさを理解してもらえた気がします。一緒に過ごしてきたからこそ分かる互いの習慣や考え方を尊重し合い、先生方と協力してイベントを成功させることができました。とても好評で私が帰国しても継続して行っていくそうです。終了後には当日や練習の様子を動画にまとめ、学校のSNSを通して保護者の方々にも頑張りを見てもらいました。



【ひとこと】

突然ですが私は現在27歳です。もう27歳、まだ27歳です。幼い頃、20歳になれば誰しもみんな立派な大人になれるものだと思っていました。そう思っていたのはきっと、素敵すぎる大人たちに囲まれて生活することができていたおかげだと思います。習い事の先生やスポーツ少年団のコーチや監督、学校の先生や部活動の顧問の先生、ご近所の仲良しのおじさんおばさんなど、幼少期の私に寄り添ってくれた大好きな大人の人たちの顔を思い出すと、不思議なことにみんな笑顔です。思うようにいくときもそうでないときもいつも私のことを信じて全力で応援し続けてくれていました。その人たちのことを思い出すと思わず胸が温くなるほど、とびきり素敵な人たちばかりでした。そして、何の根拠もありませんが25歳になる頃には結婚も出産もして、母親になっているものだと思っていました。実際に私がパラグアイで生活しているこの2年の間に、多くの日本に住む女友達の名字が変わったり、子どもを一人、二人と出産していたりするなど、人として、女性として、人生の新たな一步を踏み出している姿をスマートフォン越しに確認すると、友人としてとても誇らしい気持ちになります。何人かの結婚式に、オンラインで参加させてもらうという貴重な体験もさせてもらいました。

先日、パラグアイ人の友人と「日本とパラグアイの母親像」の違いについて話していました。愛情いっぱい子育てをしても自分の人生を楽しむことを決して妥協しないパラグアイの母親達の姿が素敵だ。私もそうなりたいと伝えました。真面目な気質や強すぎる責任感のあまりに自分のやりたいことを犠牲にして子どもを第一に考える生活を当たり前として子育てをしている日本人も多いことを伝えると「全く理解できない。賛成できない。」と言われました。彼女たちは口を揃えて事ある毎に「人生は一回きりだ。」と言います。いつも“今”を楽しむことに全力です。計画的に物事を進めないのは、楽観的な性格が要因だと始めはそう思っていたのですが、計画を立てたとしてもその通りにいかないことが多すぎるため、計画を立てる意味が無いからだと思っています。文字通り“今起きていることだけがすべて”で、それ以外の明日や明後日のこと、一年後のことなど、計画しようがないのです。例えばバス。時刻表などは当然無く、ようやく来たバスに乗れたとしてもパンクや故障をして降ろされ、また次いつ来るか分からないバスを待たなければならないのです。待ち合わせに間に合うようにシャワーを浴びようとしても急に断水が始まったり、勉強しようとする気になった日に限って停電が起こったりするなど。とにかく“今”に感謝して、一瞬一瞬を有効活用することが大切だと感じさせられます。大人であるとか子どもであるとか、母親であるとかそうでないとか、様々な立場に関係なく、時間だけは平等に流れます。自分のライフステージが変わったとしても“今”を最大限に楽しむ自由な心を忘れたくないなあと思います。

